

令和 8 年度 静岡県 英語教育改善プラン

目標

主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする児童を育成する。
～伝えたいという思いがあふれる言語活動を目指して～

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☒ 校種間連携 ☒ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (専科教員含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①単元を通した言語活動の設定について、理解が浸透してきており様々な実践が見られる。
- ②授業における児童の言語活動時間の割合は、高く保たれている。
(R4 : 89%→R5 : 90%)
- ③ALTと連携をして指導（単元構想を含む）する割合が増加した。
(R6:37.3 →R7:40.4%)

未だ改善が必要な点

- ①サポート体制を充実させて、教員が自信をもって授業に取り組めるようにする。
(R6 : 51%→R7 : 53%)
- ②授業において教員が発話の60%以上を英語で行えることを目指す。
(R6 : 51%→R7 : 53%)

2. 要因分析

①②小学校外国語活動・外国語科授業づくり研修を行った。単元を通した言語活動の設定についての講義だけでなく、実践的な演習を取り入れたことが寄与していると考えられる。

また、研修で学んだ魅力的な言語活動の設定により、主体的に学ぶ子供たちの姿を通し、言語活動の重要性が浸透し、時間が確保されるようになったことが寄与していると考えられる。

③ALT資質向上研修の中で、ALTに対しても指導要領の内容や言語活動、担任との連携についての研修を行ったことも寄与していると考えられる。

①②小学校において、外国語活動・外国語科について専門性をもった教員が少なく、相談する機会も少ないため、外国語を使用することや単元計画を作成することに自信をもてないことが要因だと考える。

3. 目標を達成するための施策・事業

①単元を通した言語活動の浸透

言語活動を中心とした授業づくりを充実するために、小学校外国語活動・外国語科授業づくり研修会を県内7カ所で行い、言語活動を中心とした授業づくりに係る講義、演習を行い英語指導力向上を図る。独立行政法人教職員支援機構（NITS）の研修に参加した教員の実践例を生かし、単元を通した言語活動について、伝達する場を設ける。

①②小中高の連携

他校種の教員との連携を図るために、*GRIDを年間6回実践し、他校種の教員との情報交換及び協議会を行う。

また、小中学校主催の*GRIDにおいて、言語活動を中心とした授業づくりの際に効果的な方法や実践例を共有できるようにする。研修会には、毎回、大学教授を招き、直接、指導・助言をもらうことができる場とする。

小学校外国語活動・外国語科授業づくり研修、中学校外国語科授業づくり研修において、小中高の連携を図るため全ての校種が参加できるようにする。

③多文化共生課や高校教育課とも連携を図り、ALTへの研修を充実させる。

①②言語活動のさらなる普及推進

専門性をもつ教員が少ない学校の教員のために、小学校外国語活動・外国語科授業づくり研修や*GRIDにおいて、自校での取組状況や現状を協議する場を設ける。

＜小学校英語専科指導に係る加配定数活用＞

小学校教員採用試験において、英語資格・英語免許保有者に対する加点制度を実施している。

*GRID：主体的に学び続ける外国語担当教員のためのオンライン情報共有サイト

令和 8 年度 静岡県 英語教育改善プラン

目標

主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする生徒を育成する。
～伝えたいという思いがあふれる言語活動の質的向上を目指して～

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R7 : 41.8% ⇒ R8 : 45%)

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☒ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①生徒の英語力について
CEFR A1相当以上の割合に増加が見られる。
(R6:39%→R7 : 41.8%)
- ②教師の英語力について
CEFR B2レベル相当以上の割合に増加が見られる。
(R6 : 48.3%→R7 : 62.5%)
- ③ICT機器活用状況について、以下の項目で増加が見られる。
メール等活用
(R6 : 27.0%→R7 : 50.9%)
オンライン会話
(R7 : 30.1%)

未だ改善が必要な点

- ①単元を通した言語活動の設定について、周知を図っているが、浸透するまでには至っていない。
- ②AI活用が進んでいるが、活用方法に課題が残る。
(R7 : 59.5%)

2. 要因分析

- ①各研修会などにおいてCEFRに基づく目標設定の理解が進んだことで教員による適切な「見取り」が行われ、指導がよりの確になったことが、寄与していると考えられる。
- ②CEFRに対しての理解が進み、授業力を高めようとする教師が増えていることが寄与していると考えられる。
- ③外国語科の資質・能力の向上に向けて、一人一台端末の活用が浸透し、クラスルームの投稿やALTが効果的に活用していることが寄与していると考えられる。

- ①学校訪問や研修会において、単元を通した言語活動の設定の重要性について、周知しているが、理解が十分にされておらず、言語活動の質の向上に寄与していないことが考えられる。
- ②学校訪問などでAIによる安易な翻訳が見られる。教師が活用方法を十分に示すことができていないことが寄与していると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①目標と指導、評価の一体化」の継続的な推進
中学校外国語科授業づくり研修や希望研修などを効果的に活用し、言語活動を中心とした授業づくりの充実や「目標と指導、評価の一体化」の継続的な推進を図っていく。
- ②CEFRに対しての理解の促進
各種研修会、GRIDなどにおいて、CEFRに対して理解を図ることができる内容を取り入れるようにする。
- ①②小中高の連携推進
小中高合同研修*GRIDを年間 6 回実施し、他校種の教員との情報交換及び協議を行う。小中学校主催の*GRID研修会において、言語活動を中心とした授業づくりの際に効果的な方法や実践例を共有できるようにする。研修会には、毎回、大学教授等を招き、直接、指導・助言をもらうことができる場とする。
- 小学校外国語活動・外国語科授業づくり研修、中学校外国語科授業づくり研修で、小中高の連携を図るため全ての校種が参加できるようにする。
- ①言語活動の普及
中学校における外国語教育の推進に向けて、外国語教育を推進する学校教員に対し、研修を行い、外国語教育に携わる教員全体の指導力の向上を図る。
- ②中学校外国語科授業づくり研修会や学校訪問などにおいてAIの活用方法について参考となる事例を提示する。

*GRID : 主体的に学び続ける外国語担当教員のためのオンライン情報共有サイト

令和 8 年度 静岡県 英語教育改善プラン

主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする生徒を育成する。

～生成AIの効果的活用と、自律的学習による英語力向上を目指して～

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R7 : A2以上 57.4%、B1以上 27.6% ⇒ R8 : A2以上 60.0%、B1以上 30.0%)

目標

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☒ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①生徒の英語力について、CEFR A2レベル以上、B1レベル以上、ともに増加が見られる(取得・推定)。
(A2 R6:56.3%⇒R7:57.4%)
(B1 R6:24.5%⇒R7:27.6%)
- ②教師の英語力の状況について、B2レベル以上で大幅な増加が見られる。
(R6:85.7%⇒R7:92.2%)
- ①AIの活用状況について、活用率は低くないものの、継続的な活用や質の高い活用には至っていない。
(R7:活用している74.7%、活用していない25.3%)
- ②生徒の英語力について、外部試験にてCEFR A2レベル相当以上を取得した生徒の割合に減少が見られる。
(R6:33.4%⇒R7:32.4%)

2. 要因分析

- ①各研修や定期訪問等において、CEFRに基づく目標設定の理解が進んだことで、教員による適切な「見取り」が行われ、指導がより的確になった。このことが、生徒の英語力向上に寄与したと考えられる。
- ②各研修や定期訪問等において、発問やリキャストの手法を広げたことで、教員の英語使用が増加したと考えられる。「論理・表現」における英語使用の促進が今後の課題である。
- ①定期訪問等において、AIの安易な翻訳利用が散見される。教員が活用法を十分に示すことができていないことが、質の高い活用が定着しない要因と考えられる。
- ②英語力のさらなる向上には、生徒の自律的学習が不可欠である。生徒の「学びに向かう力」を引き出すための指導上の働きかけが不足していると推測される。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①「目標と指導、評価の一体化」の継続的な推進
教員の見取り力および指導力の向上のため、*GRIDでの大学教授の講義や情報交換にて、CEFRに基づいた目標設定と、それに対応した指導・評価の在り方について継続的に発信する。
 - ② 教育課程研究委員会（外国語）による実践研究と普及
教員の授業における英語使用および生徒の言語活動の質的向上を目指し、教育課程研究委員 4 名と年10回程度、効果的な発問等の手法について実践、研究する。研究成果を整理し、令和9年度夏の教育課程研究集会での発表を通して全県への普及を図る。
 - ① ICT・生成AIの効果的な活用モデルの構築
*アライアンスでの他県教員や*GRIDでの小中教員との情報交換や大学教授の講義を基に、効果的なICTやAIの活用法を明確にする。研修や定期訪問を通じ、生徒が自分の考えを言語化し、発信するための具体的な活用モデルを提示する。
 - ② 「学びに向かう力」の育成に向けた授業改善研究の推進
研究協力校と連携し、生徒の「学びに向かう力」を見取り、授業改善に繋げる手立てを*課研究として他教科と協働で研究する。
また、長期休業中に希望者対象で「オンライン国際交流」を実施し、英語を実践する機会を提供し、生徒の主体的な学習意欲を喚起する。
- *GRID:新時代に対応した英語指導力向上サポート研修(オンライン)
*アライアンス:自治体連携オンライン英語授業改善サポート研修
*(高等学校支援) 課研究:児童生徒のウェルビーイングのために学びに向かう力を高める学びの土壌づくり (R8~9年度)

静岡県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		60.0	55.7	60.0	56.3	60.0	57.4	60.0		60.0	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		30.0	20.7	30.0	24.5	30.0	27.6	30.0		30.0	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		75.0	53.8	75.0	55.9	75.0		75.0		75.0	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		70.0	77.1	80.0	91.0	80.0		85.0		85.0	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100.0	99.1	100.0		100.0		100.0		100.0	
		公表（％）	80.0	51.4	80.0		80.0		80.0		80.0	
		達成状況の把握（％）	100.0	68.5	100.0		100.0		100.0		100.0	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		85.0	82.3	85.0	85.7	85.0	92.2	85.0		85.0	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		75.0	44.0	65.0	41.9	65.0	40.5	70.0		75.0	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50	36	45	39.7	45	41.8	45		50	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		90	75	80		85		90		95	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		90	82	90		95		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	70	66	75		80		85		90	
		達成状況の把握（％）	85	79	85		90		95		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		50	49	55	48.3	60	62.5	65		70	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		90	64	75		80		85		90	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	80	76	85		90		95		100	
		公表（％）	50	50	55		60		65		70	
		達成状況の把握（％）	65	61	70		75		80		85	